

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：看護学科

資格：准教授

氏名：岩佐 真也

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学, 国際保健学	アウトリーチ, 受療行動, アフリカ
学位	最終学歴
博士 (保健学)	大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 国際看護・国際保健	共	2012年01月	弘文堂	<p>国際保健という大きな枠組みの中で、とくに看護に関わる領域に焦点を当て、様々な視点から問題を捉えることができるテキストである。本書の特徴は、単に世界で起こる現象を学ぶだけでなく、そのことが私たち自身の生活とどのように関連しているのかを考えられるような構成になっていることである。その点からも本書は、理論と実践を意識した書籍である。</p> <p>本人担当部分：p.75                      実際のアフリカでの体験を通し、住民参加を基本にしたプライマリ・ヘルスケアの展開を解説している。現象の全体を捉えるとはどういう事かを実例を用いながら説明し、ニード指向性のある保健活動、保健活動への住民参加等のプライマリ・ヘルスケアの原則についても触れ、概念と実践を結び付けて捉えることができるよう工夫した。                      編集 丸井英二・森口育子 共著者名：李節子、岩佐真也、ほか31名</p>
2 学位論文				
1. セネガル・サルーン地帯における生活実態を基盤にした持続可能な保健医療対策に関する研究 ―セネガル社会からのアプローチ―	単	2011年03月	大阪大学大学院医学系研究科 学位論文集	<p>我が国の地域医療施策立案における基礎的分析の一つである保健学的な地域分析の手法を保健文化論的実態調査と組み合わせ、セネガル共和国の地域保健医療のあり方について検討した。実態把握は生活実態、受療行動、伝統医療者に対する治療実態の3視点から行った。生活実態については、民族学的参加観察法を用い、受療行動については、無作為抽出による他記式質問紙法を用いたインタビュー調査、伝統医療者への調査はインタビューと参加観察法を用いた。その結果、画一的な医療施設の役割からの脱却、安全でない売薬に対する住民の認識の変革、伝統医療の保護に向けた取り組み、一定の基準を設けた薬草師の認定、西洋医療基礎教育の中で伝統医療の知識やその治療世界を学べる機会の提供の必要性が検討された。地域診断と保健文化論的手法の統合により、地域社会にとって進めやすい具体的な地域保健医療対策を提案できた。また、これらはセネガル</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
2. セネガル農村部における、基礎保健員の継続的活動を支える住民側の要因	単	2005年03月	兵庫県立看護大学大学院看護学研究科 学位論文集	<p>の保健計画立案時における基礎的データとなり得るとともに、地域密着型の保健計画立案に欠かせない持続可能性を取り入れた実践型政策としても提案できた。</p> <p>セネガルの地方において実質的に医療を支えているのは基礎保健員と言われるコミュニティ・ヘルスワーカーである。そこで、農村部で保健医療活動を実施する基礎保健員（無資格）の活動実態と、基礎保健員の継続的活動を支える住民側の要因を明らかにした。その結果、基礎保健員の選出方法、村の問題や健康問題についての住民と基礎保健員との認識の一致、基礎保健員の実施可能な役割理解、住民の基礎保健員に対する日常的な支援、保健委員の選出及び保健委員会の設置が村づくりの中に位置づけられている組織であることが要因であると考えられた。無資格のボランティアとして活動する基礎保健員にとって、単に給与が高いだけでなく、日ごろから支えてくれる住民の力が必要不可欠であり、保健政策への住民参加の重要性が明らかにされた。保健という一つの局面をとおして地域全体の活性へと結びつける大きな力になることを示唆した。これらは、住民同士がエンパワーメントしあいながら、地域開発につながっていく大きな資源であると考えられた。</p>
<b>3 学術論文</b>				
1. Illness Prevalence and Healthcare Utilization Behaviors in Rural Senegal: A Population-Based Study (査読付き)	共	2014年12月	民族衛生, 第80巻6号, p. 261-275	<p>セネガルの地方における、乳幼児を含む一般住民の西洋医療と伝統医療を含めた有病率と受療プロセスを明らかにすることを目的とした。無作為抽出法により、農村（V1）から29軒、魚村2（V2）から21軒を抽出し、質問紙を用いて面接調査を行い、過去3カ月の罹患状況と対処行動を調査した。受療プロセスは、樹形図にまとめ可視化し、有病率は年齢区分、疾患ごとに分けて算出した。その結果、V1の有病率は1.4、V2は1.5だった。両村全体の有病率に大差はないが、疾病構造や年齢区分ごとには違いが見られ、地域や年齢を考慮した保健医療対策の必要性が示唆された。住民の受診プロセスは、西洋医療だけでなく伝統医療も含めプライマリーな医療から専門的な医療へと流れていることも示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、分析、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共著者名：MAYA IWASA, Sachiko SHIMIZU, Yuko OHNO</p>
2. セネガル共和国ファティック州における治癒までの疾患別治療費（査読付き）	共	2014年12月	The journal of Senri Kinran University, No. 11, P. 27-46	<p>OTC医薬品や伝統医療をも網羅した、第1受療行動から治癒を含む第3受療行動までの疾患別治療費の実態を明らかにした。全疾患における治癒もしくは第3受療行動までの治療費の中央値は、V1で600Franc cfa、V2で500 Franc cfaだった。この受療行動の中にはOTC医薬品や伝統医療者の利用の治療費も含まれており、日常生活に根差した医療の視点を含んだ治療費の実態を明らかにすることができた。OTC医薬品ほどの治療方法よりも安く、専門医療機関になるほど治療費が高くなることも明らかとなった。地理的特徴により受診しにくいことが、OTC医薬品の備蓄と使用につながっている可能性も考えられた。パイロットエリアを内陸部と島としたことで、本研究で明らかになった治療費の実態はセネガルの地理的特徴を踏まえた、今後の保健医療対策立案のための基礎的資料になるものと考えられた。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、データ収集・分析、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共著者名：岩佐真也、森本安紀、大野ゆう子</p>
3. テキストマイニング手法を用いた参与観察データの多角的視点分析（査読付き）	共	2013年12月	The journal of Senri Kinran University, No. 10, p. 39-46	<p>参与観察データをテキストマイニングで分析することにより、観察者が捉えた現象を多角的にみるための視点を明らかにするため、既存の参加観察データを対象とし、構成要素を抽出した。テキストマイニングにより、609語の全構成要素を得た。全構成要素における高頻度の出現頻度である構成要素が必ずしも各領域での高頻度の特徴語になっているわけではなく、低頻度の特徴語として現れているものもあった。低頻度の特徴語は、調査者が各領域のデータを収集する際に見落としがなかったかといった注意喚起を与えてくれる可能性があると考えられる。またこの注意喚起は、その後のデータ収集の際の新たな</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
4. Cost-effectiveness analysis of a pertussis vaccination programme for Japan considering intergeneration infection (査読付き)	共	2013年06月	Vaccine, 31(27)、p. 289-2897	<p>な視点として活用されることで、各領域だけでなく、データ全体像の捉えなおしにもつながると考えられた。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、データ分析、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共著者名：岩佐真也、大野ゆう子</p> <p>青春期のジフテリア？破傷風（DT）ワクチン・プログラムを変えるための予防接種の費用効果を評価した。評価にはマルコフモデルを適応させ、若者/大人から幼児まで世代間の感染症を考慮し、コスト、寿命、利益-コスト比率（BCR）と付加される費用効果比率（ICER）に関して分析した。その結果、以前行われていた青春期のDTaP予防接種の費用効果がよいことが明らかになった。予防接種の費用効果分析の結果が発生率に応じて大いに変化していることから、百日咳発生率のより正確な報告は必要とされることが示唆された。</p>
5. セネガル農村部における基礎保健員の継続的活動を支える住民側の要因 (査読付き)	単	2012年12月	The journal of Senri Kinran University, No .9、p. 47-56	<p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共著者名：Tomoya Itatani, Sachiko Shimizu, <u>Maya Iwasa</u>, Yasushi Ohkusa, Kazuo Hayakawa</p> <p>セネガルの農村部において、基礎保健員の継続的活動を支える住民側の要因を、プライマリ・ヘルスケアの住民参加という視点から明らかにした。方法は、セネガル共和国C郡にある、9村の保健小屋にかかわっている住民（村長・自治会役員・保健委員・基礎保健員）に対し、住民の基礎保健員への関わりと必要性、役割認識、基礎保健員の活動上の問題と対処行動、保健委員の活動等について、家庭訪問による質問紙を用いた面接調査である。本研究により、基礎保健員が実施可能な範囲の活動を住民が理解することや、基礎保健員の活動上の問題に対して話し合いを通して対処行動を見出す力をもつことが必要であることが分かった。また、それをリードする保健委員会組織の存在と、村全体の発展を目指して保健活動に携わる保健委員の総合的視点が重要であることが明らかになった。これらは、住民自身がエンパワーメントされ、またエンパワーメントし、組織化へとつながる一連のプロセスを明らかにした。</p>
6. The study on the visualization of utilization behaviors in health care in Africa by Unified Modeling Language (査読付き)	共	2011年12月	The journal of Senri Kinran University, No. 8, p. 96-103	<p>UMLを用いて過去一年間に罹患した病気の受療行動を可視化し、効果的な保健医療支援の可能性を検討する事を目的とした。来日したアフリカ5カ国の保健医療関係者計11名を対象とし、過去一年間に罹った病気の対処行動を質問紙調査と面接調査により把握した。保健医療関係者の受療形態は、病院をはじめとする現代医療中心の形態を成しており、対象国により保健医療システムに違いはあるが、保健センター、病院、伝統医療（薬草師）に大別することができた。また、UMLを用い対象者各々の受診のプロセスをアクティビティ図に集約することで、アフリカ5カ国の西洋医療と伝統医療の受療形態と受診プロセスをほぼ可視化することができた。さらに、民族や宗教は異なっても保健医療関係者であれば、ほぼ同様の受療行動であることが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共著者名：Maya IWASA, Yuko OHNO, Sachiko SHIMIZU</p>
7. Nursing Business Modeling with UML:From Time and Motion Study to Business Modeling (査読付き)	共	2011年10月	InTech Quality Control, 22, p. 405-414	<p>看護業務のモデリングをUML手法をもちいて分析した研究である。慢性期病棟を対象として、24時間の他記式タイムスディーを行った。病棟では看護師だけでなく、看護助手やクラークといったスタッフも看護業務の遂行には重要な役割を果たしていることから、従来のタイムスタディよりも対象層を広げ調査を行った。また、その時点ごとの動きに、時間の経過情報を加味して分析を行った。その結果、中断業務を始め、看護業務の一連の流れが明らかになった。さらに、業務を支える人の動きや関わりが時の流れと共に描き出され、看護業務を構造的にとらえることができた。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
8. Decision making factors behind the use of modern and traditional medicine of healthcare workers in five African Francophone countries (査読付き)	共	2011年01月	民族衛生 第77巻1号 p. 3-17	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共著者名：Sachiko Shimizu, Rie Tomizawa, <u>Maya Iwasa</u>, Satoko Kasahara, Tamami Suzuki, Fumiko Wako, Ichiroh Kanaya, Kazuo Kawasaki, Atsue Ishii, Kenji Yamada and Yuko Ohno</p> <p>アフリカ・フランス語圏5カ国の保健医療関係者の西洋医療と伝統医療に対する考えや認識を実際の受療行動から把握し、保健医療関係者の受療機関の決定に影響を与える要因を明らかにした。その結果、「病状に応じたより安全で効果的な医療への期待」、「専門職として生まれた価値観」及び「現在の生活環境により生み出された経済および利便性認識」が浮かび上がった。このような認識は、西洋医療支援を行なう際には導入しやすいことを意味し、WHOが提唱する伝統医療の充実を行なう際には困難を伴うことを意味している。保健医療関係者は住民にとって健康や医療を代弁し政策立案に関わる人物である。保健医療関係者は、自身の個人的認識と地域住民の認識とを混同することなく、西洋・伝統医療の両医療の充実に寄与できるよう育成される必要があることが示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共著者名：<u>Maya IWASA</u>, Yuko OHNO, Anna TSUTSUI, Sachiko SHIMIZU</p>
9. Social Interaction in Risky Behavior by College Student in Japan	共	2010年11月	6th Asia Pacific Association for Medical Informatics Proceedings6 (於：HIROSHIMA, JAPAN)	<p>日本の大学生を対象に、リスク選好における社会的相互作用について明らかにすることを目的とした。リスクの内容としてアンダーソンの先行研究をもとに、喫煙、避妊しない性交渉、飲酒、シートベルトの着用有無などを取り上げた。その結果、大学単位、クラス単位での社会相互作用があり、それらにはpeerが存在していることが明らかとなった。それらは、peer行動の知覚、現在のpeer行動、最も親しい友人3人の現在の行動であった。大学生のこのような3つのpeer行動は社会相互作用として働いていることが示唆された。</p>
10. セネガルの農村部における基礎保健員 (ASC) の選出条件 -青年海外協力隊が支援した事例から- (査読付き)	単	2007年03月	兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要 第14巻 p. 57-65	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：Shimizu, S., Ohno, Y., Ohnishi, K., <u>Iwasa, M.</u>, Gaoyahan, Mochimaru, Y., Wang, Y., Y.</p> <p>セネガルでは、国の方針として基礎保健員と呼ばれるコミュニティーヘルスワーカーの活動が期待されているが、様々な問題から継続的活動ができない場合が多い。そこで、本研究では、セネガル農村部において実際に基礎保健員の育成に関わった筆者の経験から、「人選」の問題を通して基礎保健員の適切な選出条件を明らかにした。その結果、基礎保健員の年齢や性別、配偶者の収入などが重要な選出条件であることが明らかとなった。このことは、継続的な地域医療のあり方を考える際の重要な視点であることを示唆している。</p>
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
<b>2. 学会発表</b>				
1. テキストマイニング手法を用いた参与観察データの多角的視点分析	共	2014年11月	第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会 (於：国立国際医療研究センター)	<p>参与観察データをテキストマイニングで分析することにより、観察者が捉えた現象を多角的にみるための視点を明らかにするため、既存の参加観察データを対象とし、構成要素を抽出した。全構成要素における高頻度の出現頻度である構成要素が必ずしも各領域での高頻度の特徴語になっているわけではなく、低頻度の特徴語として現れているものもあった。低頻度の特徴語は、調査者が各領域のデータを収集する際に見落としがなかったかといった注意喚起を与えてくれる可能性があることが示唆された。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
2. Coûts des traitements en fonction des symptômes et des composants	共	2013年05月	International Council of Nurses 25TH Quadrennial Congress (於: Melbourne Australia)	本人担当部分: 共同研究に付き本人担当部分抽出不可能(研究計画の立案、分析、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した) 共同発表者: 岩佐真也、大野ゆう子 セネガルの2村を対象に受療行動と治療費について調査を行い、治療費は、受療行動と疾患ごとに基本統計量を算出した。その結果、村1では、下痢、関節痛、外傷が、村2では発熱と関節痛の中央値より約2倍以上高かった。また、受療行動別では、両村ともOTCにより治療費が最も安かった。診療所では、村2の治療費が村1の1.5倍から5倍高く、同様に保健ポストも村2が村1より2倍高かった。治療費は受療段階に影響されるのではなく、受療先(受療行動)により異なると考えられた。しかし、同じ受療行動、例えば診療所や保健ポストであっても、居住地により治療費には大きな差があり、地理的環境と治療費との関連が示唆された。
3. The world of nursing engineering through the practice of public health nursing in Japan and abroad	単	2012年09月	第27回生体・生理工学シンポジウム(於:北海道大学)	本人担当部分: 共同研究に付き本人担当部分抽出不可能(研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した) 共著者名: Maya Iwasa、Yuko Ohno 看護職の中でも「保健師」を切り口として看護工学について検討し、自身の経験を踏まえ、2つの保健師活動の事例を報告した。一つ目は日本での児童虐待についてであり、二つ目はセネガルの農村部で暮らす乳幼児の病気発見についてである。保健師は、家庭訪問や地域巡回の際に、これらの事象に対して何らかの「武器」(道具という意味)を持って出かけることは無い。その理由の一つとして、保健師が看護工学から生まれる「武器」という存在を知らないからだと考えている。そこで、二つの事例から、保健師から見た看護工学への期待を述べた
4. セネガルのセレール民族の生活と医療	共	2011年11月	第76回日本民族衛生学会総会(於:福岡大学)	本人担当部分: 共同研究に付き本人担当部分抽出不可能(研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した) 共同発表者: 岩佐真也、大野ゆう子、清水佐知子 セネガルの農村と漁村に暮らすセレール民族を対象に、村民の一般生活や生活環境などの村の文化や価値観、医療への認識を明らかにするため、民族看護学の視点で参加観察を行った。分析には、我が国の地域医療施策立案における基礎的分析の一つである保健学的な地域分析の手法を用いた。その結果、地理的環境が受療行動に影響し、伝統医療薬や西洋医療薬に関わらず医薬品を備える文化を生み出していることが示唆された。
5. 受療行動と治療費: セネガル、ファティック州での住民調査	共	2011年11月	第52回日本熱帯医学会大会 第26回日本国際保健医療学会学術大会合同大会(於:東京大学)	本人担当部分: 共同研究に付き本人担当部分抽出不可能(研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した) 共同発表者: 岩佐真也、大野ゆう子、清水佐知子 疾患と治療費、OTCや伝統医療を含む受療行動と治療費の実態を明らかにするため、セネガルのファティック州にある内陸部農村(A村:100世帯人口約800人)と島部漁村(B村:80世帯人口約1,000人)をパイロットエリアとし、無作為に抽出された世帯の全成員に対し、過去3ヶ月間に罹患した疾患の受療行動と費用を他記式質問紙法により調査した。受療行動段階別、疾患別、治療方法別の治療費(直接経費)を統計的に算出し、受療行動と治療費の実態を明らかにした。これらの実態は、コスト面から見た保健計画の在り方を提案するものとなった。
6. Nursing Engineering Application to Public Health Nursing	単	2011年09月	The 26th Symposium on Biological and Physiological Engineering(於:Shiga, Japan)	本人担当部分: 共同研究に付き本人担当部分抽出不可能(研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した) 共同発表者: 岩佐真也、大野ゆう子、清水佐知子 看護工学分野のオーガナイズド・セッションで発表した。現在、看護工学が脚光を浴びており、転倒予防や見守りシステム、洗髪ロボットなど、看護と工学は今や切り離せないものとなっている。しかしこれらは、療養・治療を必要とする者や彼らが暮らす院内や在宅という限られた場での看護工学技術の展開に過ぎないのではないかと考えている。そこで我々看護職の中でも「保健師」を切り口として看護工学を探り、療養者・患者といった個ではなく、住民という集団の中での看護工学の今後の姿を提案した。
7. 多言語対応問診システムの開発	共	2011年06月	ITヘルスケア学会第五回年次学術大会(於:大	本人担当部分: 共同研究に付き本人担当部分抽出不可能(研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した) 共同発表者: 岩佐真也、大野ゆう子、清水佐知子 訪日した外国人が急病などで日本の医療機関にかかる際に、大きな問題となるのが「言葉」である。教

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
8. セネガルにおける地理的環境の異なる地域住民の主観的重症度と受療行動の比較	共	2010年09月	阪大学)  第25回日本国際保健医療学会（於：日本赤十字九州国際看護大学）	育研究機関・民間企業・NPOなども問診票作成等の取り組みを行っているが、十分なシステムが普及しているとは言えない。そこで我々は、視聴覚を利用出来るアンドロイド端末に着目し、アニメーションや音声を使用することで直感的に質問内容が把握できる多言語対応問診票を設計試作し、限定的ではあるが訪日外国人による評価まで実施した。今後、改良を重ねることで、日本のみならず世界での実用化に向けアプローチできるものが出来上がった。  本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（問診項目内容の検討、各言語に翻訳する際の症状の表現方法の検討、システムの利用調査、結果の考察、文献の調査など実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：小川大一、清水恵、 <u>岩佐真也</u> 、濱谷恵子
9. タイムプロセススタディ手法を用いた外来化学療法部門の業務分析と増床前後の治療待ち時間比較	共	2010年05月	ITヘルスケア学会 第4回年次学術大会（於：東京大学）	セネガルの農村と漁村に居住する住民の罹患状況と対処行動から、地理的環境の違いによる主観的重症度と受療行動の関連を明らかにした。その結果、農村では、プライマリーな医療手段として保健小屋が位置づき、軽症での利用という早期受診が実践されている。一方、漁村では主観的重症度が重度な者が多いにもかかわらず、OTC医薬品が医療施設と同等の価値を付与されており、主観的重症度に関係なく受療行動がとられていた。このことはセネガルにおける保健医療政策の具体的検討を行う際の「地域性」の考慮の在り方を提示するものとなった。  本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共同発表者： <u>岩佐真也</u> 、大野ゆう子、清水佐知子、山川祐子
10. 手術台の縦転・横転が及ぼす体圧の変化	共	2010年03月	生体医工学シンポジウム2010（於：北海道大学）	がん患者の早期退院に伴い、病院では外来化学療法部門を設置することが多くなっている。外来にて抗がん剤を用いた高度な治療を行うため、安全性の確保と治療の質の確保が重要である。そこで、外来化学療法部門に携わる医療関係者の業務プロセスを明らかにし、その特性を把握することで安全確保の実態と条件を明らかにした。その結果、病院構造やシステム形態が患者移動の必要性や医療者業務の複雑さを生じ、患者の治療待ち時間を長引かせていることが明らかとなった。  本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：坂田奈津美、大野ゆう子、清水佐知子、横内光子、 <u>岩佐真也</u> 、大西喜一郎、王媛媛、山田憲嗣、金谷一朗、田墨恵子、水木満佐央
11. An Interactive, Multimodal Visualization and Analysis System for Time Motion Study	共	2009年11月	6th Asia Pacific Association for Medical Informatics Proceeding s6（於：HIROSHIMA, JAPAN）	手術中の長期間の一定体位はその必然性から十分議論されていないのが実情である。そこで本研究では、腹腔鏡下で行われる術式の中で多いとされる仰臥位で手術台を水平位、縦転、縦転と横転の3条件で体圧変化を測定し検討した。その結果、S位に比べてHU位での仙骨部の体圧は有意に上昇を認めた。全身麻酔や手術といったクリティカルな状況下にある患者の身体は褥創発生の危険性が高いだけでなく、手術台の縦転・横転による体圧の上昇も危険因子の一つとして考慮すべきであることが示唆された。  本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者はじめ全著者に対する指揮と指導を行った） 共同発表者：田中 範佳、大野 ゆう子、山田 憲嗣、 <u>岩佐真也</u>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
12. Social Interaction in Risky Behavior by College Student in Japan	共	2009年11月	6th Asia Pacific Association for Medical Informatics Proceeding s6 (於：HIROSHIMA, JAPAN)	<p>うなシステムが構築でき、問題解決に貢献した。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：Lin, J., Ohno, Y., Ishii, A., Shimizu, S., Susuki, Y., Noda, H., <u>Iwasa, M.</u>, Yoshioka, N., Wang, L., Numasaki, H.</p> <p>日本の大学生を対象に、リスク選好における社会的相互作用について明らかにすることを目的とした。リスクの内容としてアンダーソンの先行研究をもとに、喫煙、避妊しない性交渉、飲酒、シートベルトの着用有無などを取り上げた。その結果、大学単位、クラス単位での社会相互作用があり、それらにはpeerが存在していることが明らかとなった。それらは、peer行動の知覚、現在のpeer行動、最も親しい友人3人の現在の行動であった。大学生のこのような3つのpeer行動は社会相互作用として働いていることが示唆された。</p>
13. アフリカ諸国フランス語圏における医療の行方	共	2009年10月	第68回日本公衆衛生学会総会（於：奈良県立文化会館）	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：Shimizu, S., Ohno, Y., Ohnishi, K., <u>Iwasa, M.</u>, aoyahan, Mochimaru, Y., Wang, Y., Y.</p> <p>アフリカ諸国の保健医療関係者における受療機関（現代医療と伝統医療）の決定に影響を与える要因を分析し、西洋医療と伝統医療という両者の受療行動について検討した。その結果、西洋医療教育を受けた対象者の伝統医療への認識は、一部の者を除き、大半は否定的であった。西洋医療関係者のこのような否定的認識は、持続可能な発展途上国の保健医療の在り方を考える上で、現地医療関係者の伝統医療への価値認識を高め、伝統医療の質的向上を図る支援の必要性を示唆した。</p>
14. Social Interaction in Risky Behavior by College Student in Japan	共	2009年07月	7th World Congress on Health Economics/World Congress on Health Economics (於：Beijing, CHINA)	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共同発表者：<u>岩佐真也</u>、大野ゆう子、志岐直美、筒井杏奈、清水佐知子、持丸祐子</p> <p>リスク選好について、大学生を対象に基本属性及び危険行動（飲酒・喫煙・シートベルトの着用・避妊しない性行為など）との関連を調査した。これらの危険行為は数値化し、対象である大学生が結果を統計的に理解できるよう工夫した。その結果、リスク選好は喫煙、飲酒及びダイエットにおいては優位にリスク選好と関連があった。特に女性ではダイエットは非常にリスク選好と関連していたことが明らかになった。大学生のこのようなリスク選考の実態は、思春期保健を捉える上でより実践に即した対応の検討を可能にすることに貢献する。</p>
15. Analyse Des Facteurs De Decision Pour Les Etablissements Medicaux En Afrique : Choix Entre La Medecine Moderne Et La Medecine traditionnelle	共	2009年06月	The International Council of Nurses 24TH QUADRENNIAL CONGRESS (於：Darban, SOUTH AFRICA)	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：Shimizu, S., Yoshioka, N., <u>Iwasa, M.</u>, Yahan, G., Ohno, Y.</p> <p>アフリカ諸国の保健医療関係者における受療機関（西洋医療と伝統医療）の決定に影響を与える要因を検討した。その結果、受療機関の決定に影響を与えている要因として9カテゴリーが抽出され、これらは2つに大別できた。「病状に応じたより安全で効果的な医療への期待」と「生活環境と専門職として育まれた価値観」である。前者には、5つのカテゴリーが該当した（適切な診断と治療効果など）。後者には、4つのカテゴリーが該当した（伝統医療への否定的肯定的認識など）。保健医療関係者のこのような認識は、今後の専門職育成時に考慮すべきことを示唆することとなった。</p>
				<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した）</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
16. 喫煙行動における社会的相互作用の影響に関する実証研究	共	2009年03月	第79回日本衛生学会総会（於：東京大学）	<p>共同発表者： <u>Iwasa, M.</u> , Ohno. Y., Shiki. N., Tsu tsui, A.</p> <p>大学生を対象に、社会的相互作用が喫煙行動に与える影響を分析し、社会的相互作用下での個人の健康行動を定式化することを目的とした。その結果、喫煙行動に対する統計学的に有意な社会的相互作用効果が確認された。一方で、性別や個人のリスク選好といった変量も喫煙行動確率を上げる影響要因であることが示唆された。喫煙開始が始まる年齢層の社会相互作用での喫煙行動確率を明らかにすることで、中学生や高校生を対象とした健康教育の充実や生活環境の整備の具体的取り組みが行なえる成果を得た。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：清水佐知子、吉岡なつき、持丸祐子、<u>岩佐真也</u>、大野ゆう子</p>
17. 県内保健所、保健センターにおける地域看護実習指導の現状と保健師の認識（第2報）－実習担当保健師への調査から－	共	2008年11月	第67回日本公衆衛生学会総会（於：福岡国際会議場）	<p>第1報に引き続き、兵庫県下での保健師育成の実習について検討した。保健所、市町の実習に関わる保健師が、実際に実施した実習指導内容項目とそれに対する困難感、またそれらの内容について大学教員と施設側実習指導者のどちらが担うべきかを調査した。その結果、実習指導の役割については、大学教員と施設側指導者の両方が担うとした項目が多かった。その内容は、実習体験により生じた疑問への対応、家庭訪問の指導及び健康教育の指導などであった。これの実態から、現場と協働した実習指導内容を検討することにつながった。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者はじめ全著者に対する指揮と指導を行った） 共同発表者：榑橋明子、牛尾裕子、松田宣子、岩本里織、柏葉三千子、菅野夏子、富永真己、大井美紀、伊東愛、<u>岩佐真也</u></p>
18. 大学間共同・大学自治体間共同による地域看護実習指導者研修の試み  －学士課程保健師教育における臨地実習指導体制づくりモデルの作成－	共	2008年11月	2008年度兵庫県立大学研究発表会（於：兵庫県立大学）	<p>大学間共同および大学と実習施設との共同で臨地実習指導体制の方向性を探ることを目的とし研究を行った。具体的には大学間ワーキンググループによる実習の概要・現状・課題の検討を行った。また、実習受け入れ施設に対する実習指導体制の現状と保健師の実習に対する認識を調査した。さらに、先進的取り組みを行っている県との情報交換を行い、新たな実習指導体制のモデルを作成した。今後の保健師教育を行うにあたり、現場と教育がより連動した体制の道筋が明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共同発表者：牛尾裕子、伊東愛、榑橋明子、<u>岩佐真也</u>、松田宣子、藤原恵美子</p>
19. 県内保健所、保健センターにおける地域看護実習指導の現状と保健師の認識（第1報）	共	2008年11月	第67回日本公衆衛生学会総会（於：福岡国際会議場）	<p>兵庫県では保健師養成を行う大学が10校を超え、実習のあり方が模索されている。県内健康福祉事務所、保健所、市町の保健師実習指導体制の現状と、実習に関わる保健師の認識を明らかにした。保健所と市町の業務役割特性が、学生に体験させることができる実習内容として反映されていた。市町では、実習指導業務について事務分掌で明らかにされていないなど課題があり、今後は、実習に関わる大学・県が協力して、市町の実習実施のための体制づくりに取り組む必要があると考えられた。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共同発表者：<u>岩佐真也</u>、牛尾裕子、松田宣子、岩本里織、柏葉三千子、菅野夏子、富永真己、大井美紀、伊東愛、榑橋明子</p>
20. アフリカ諸国における受療機関決定要因分析：現代医療と伝統医療の選択	共	2008年10月	第49回日本熱帯医学大会、第23回日本国際保健医療学会学術大会合同大会（於：東京大学）	<p>アフリカ諸国の保健医療関係者における受療機関（現代医療と伝統医療）の決定に影響を与える要因を質的帰納的に分析した。伝統医療と現代医療に対する肯定的否定的認識は、幼少期の生活体験を基にし、現代医療専門職としての医療への信頼と、伝統医</p>



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
21. UML手法を用いたアフリカ諸国における受療行動の検	共	2008年09月	生体医工学シンポジウム2008（於：大阪大学）	<p>療への伝承的・経験的価値判断に大きく影響されている。また、保健医療関係者として、治療、診断、処方についての科学的根拠や施術者としての公的認可の有無を重視する一方、非科学的と認識している伝統医療への期待も持っていることが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共同発表者：岩佐真也、大野ゆう子、志岐直美、筒井杏奈、谷口賀一</p> <p>伝統医療が息づく地域での受療行動を明らかにすることを目的として、聞き取り調査を基にUMLによる受療行動分析を行った。対象は、アフリカ5カ国の保健医療関係者計11名。調査項目は、過去一年間の受療先と選択理由及び西洋医療と伝統医療への認識についてである。病気の知覚から医療機関（伝統医療を含む）を受診するまでのプロセスを、UML手法を用い可視化し比較検討した。その結果、病気の知覚から治癒までのプロセスでどのようなアクションがなされているのかが明らかになった。</p>
22. 自然災害時の被災地域看護専門職支援における課題	共	2008年07月	日本地域看護学会第11回学術集会（於：琉球大学）	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究計画の立案、現地調査、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、筆頭著者としてほぼ全ての作業を遂行した） 共同発表者：岩佐真也、大野ゆう子</p> <p>自然災害発生時、被災自治体保健師と応援派遣された保健師・看護師が協力し、避難所や地域での看護活動が効率的に実施できるための看護専門職支援の課題を明らかにすることを目的とした。対象は、避難所や地域での災害看護活動経験者10名を研究協力者として行なった。「災害時の避難所・地域における看護師同士の協働の課題と展望」をテーマに検討した。その結果、被災地域看護専門職支援ネットワーク構成要素として、マンパワー、組織内ネットワーク、調整機能にまとめられ、今後確立していくべき課題が明らかになった。</p>
23. セネガル共和国における、コミュニティヘルスワーカーの適切な人選—青年海外協力隊が支援した一事例から重要な選出条件を考える—	単	2004年03月	第22回日本国際医療保健学会・西日本地方会（於：兵庫県立看護大学）	<p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった）</p> <p>共同発表者：牛尾裕子、渡邊智恵、田村須賀子、伊東愛、楢橋明子、岩佐真也、井伊久美子</p> <p>発展途上国において地域医療を支えているコミュニティ・ヘルス・ワーカーは、簡単な医療教育を受けただけのボランティアが多い。そのため、なり手が少なく離職率も高いことが大きな問題となっている。そこで、セネガルの農村部のコミュニティ・ヘルス・ワーカーの選出過程を分析し、活動継続を視野に入れた人材育成のあり方を検討した。その結果、選出にはコミュニティ・ヘルス・ワーカーが女性であること、コミュニティ・ヘルス・ワーカーになろうとする人物の世帯に村での社会的重要な役割をもつものがないことなど、具体的な選出条件が抽出できた。</p>
<b>3. 総説</b>				
1. タイムスタディの研究の進展：タイムスタディによる看護業務の観測と構造化（依頼原稿）	共	2010年12月	看護研究, 第43巻7号, p. 551-557	<p>タイムスタディ研究を実践的研究としてではなく、学問的にも構造化し普遍性の構築に寄与していることを評価され、原稿が依頼された。タイムスタディの基本となる時間研究、動作分析を紹介し、これらの統合からタイムスタディを検討した。業務の構造化に関しては業務量と動線に関する研究から特定の現象に注目したタイムスタディ研究の新領域について解説した。オブジェクト指向に基づく業務モデリングの研究やオントロジーによる、業務記録のテキスト部分の検討といった新たな表現技術の導入により、複雑なデータからの知識の抽出が可能になっていくと考える。</p> <p>本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（この論文は特別記事である。研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共著者名：清水佐知子、大野ゆう子、岩佐真也、他5名</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3. 総説</b>				
2. タイムスタディによる看護業務プロセスの可視化 (依頼原稿)	共	2010年12月	生体医工学、第48巻6号、p. 536-541	日本でも数少ないタイムスタディ研究を積極的に行っていることが評価され、原稿執筆の依頼があった。 作業測定法の一つであるタイムスタディ調査結果を基に、看護師の患者移送業務の構造を明らかにし、その可視化を行った。また、表現手段としてオブジェクト指向による業務モデリングを行った。その結果、業務責任者の所在と役割が明らかになった。また、広く臨床で用いられている業務手順書と実際の業務プロセスのかい離が示された。さらに、プロセスに時間情報を付加することで業務の稼働率が示され、リスク分析が可能となった。  本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（この論文は解説特集である。研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共著者名：清水佐知子、大野ゆう子、 <u>岩佐真也</u> 、尾島裕子、林剣煌、富澤理恵、大西喜一郎、本杉ふじゑ、岡田千鶴
3. わが国におけるがんの有病者数について：その読み方と生存率・がん登録との関係 (依頼原稿)	共	2010年02月	腫瘍内科、第5巻2号、p. 100-106	がん登録において先駆的に研究を行っていることから、原稿の依頼があった。 保健統計における有病者数について、その定義と我が国の有病者数および将来予測値を紹介しつつ、その数値を読むときに留意すべき点について概説した。また実際の有病者数の算出においては地域がん登録が資料となるため、その観点から生存率との関連、最近のがん登録における生存率算出の方法であるperiod analysisについても概説した。有病者数は社会におけるがん医療の実態と影響を表現する重要な指標であり、その推計には罹患者名簿とともに予後情報が必須であることを新たな視点から発信した  本人担当部分：共同研究に付き本人担当部分抽出不可能（この論文は特集論文である。研究の立案、研究の実施、結果の考察、文献の調査及び論文作成全般にわたり、実働的に共同研究に当たった） 共著者名：大野ゆう子、清水佐知子、堀芽久美、 <u>岩佐真也</u> 、薄雄斗
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 日本国際保健医療学会学生会主題の国際保健トレーニングでの講演	単	2014年03月16日	国立オリンピック記念青少年総合センター	本会の参加者は、将来国際保健医療活動等に興味のある、大学生、大学院生である。国際保健の中でも高等教育の中では十分に触れられることのない集団特有の精神がこめられた伝統医療や、伝統医療が見直されている理由について教授した。また地域に根差した医療活動の必要性や、個人にとって最適な医療を提供することがいかに重要かを論じた。その結果、参加者からは今後途上国を訪れる際や途上国で地域に根差した医療を考える際に、新たな視点を持つ良いきっかけとなったとの評価を得た。
2. 関西国際保健勉強会での講演	単	2012年07月28日	大阪市立生涯学習センター	本会は、国際保健に興味があり知識や経験を身につけたいと思っている人々や、現在は仕事のために具体的に国際協力に関われないが勉強していきたい人のための情報交換の場所である。参加者は医師や福祉関係者、看護師、助産師、保健師、学生と様々であるが、各自の立場で発展途上国の今後を考えられるようにテーマを選択し、セネガルにおける西洋医療と伝統医療を中心に講演を行った。学術的な伝統医療の位置づけを概説すると同時に、現地で生活する人にとっての医療とは何かについて論じた。また、伝統医療も含めた保健医療計画立案の必要性について提案した。
3. The Japan Centre for Evidence Based Practice編集のための翻訳	共	2010年04月から2011年1月まで	The Japan Centre for Evidence Based Practice	An Affiliate Centre of the Joanna Briggs InstituteのメンバーとしてThe Japan Centre for Evidence Based Practiceの翻訳作業に従事した。翻訳にあたり、より正確で分かりやすい表現になるように努めた。 翻訳したデータを閲覧できるようにWEBを構築した。
4. 2009年版保健師国家試験問題 解答と解説	共	2008年06月	医学書院 B5版 編集 看護出版部 p. 1-579	2007年度の保健師国家試験問題の回答に丁寧な解説を加え、また過去5年間の問題の傾向と解説をつけた国家試験対策本である  本人担当部分：2008年（94回）保健師国家試験問題 午前「問題16」、「問題17」、「問題18」、「問題22」、「問題23」、2008年（94回）保健師国家試験問題 午後「問題7」、「問題8」、「問題9」

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
5. 2008年版保健師国家試験問題 解答と解説	共	2007年06月	医学書院 B5版 編集 看護出版部 p. 1-569	<p>我が国の保健統計の中でも受療率について概観した。理解を促すために統計の元であるデータの出典を行い、年々変わりゆくデータを単なる暗記物とするのではなく、経過を追って理解できるように執筆した。精神疾患や難病対策といった、法律の改正により支援内容が変わるものについては、基本的考えと歴史的経緯を時系的に解説した。また国家の目指す姿についても触れ、対策の全体像を描けるように記述化した。</p> <p>共著者名：佐々木美佐子、牛尾裕子、<u>岩佐真也</u>、他27名</p> <p>2006年度の保健師国家試験問題の回答に丁寧な解説を加え、また過去5年間の問題の傾向と解説をつけた国家試験対策本である。</p> <p>本人担当部分：2007年（93回）保健師国家試験問題 午前「問題13」、「問題14」、「問題17」、「問題18」、「問題19」</p> <p>健康相談時や高齢者の健康づくりを行う際の注意事項、観察ポイントおよび把握事項について、各選択肢の理解の仕方を用例を提示し解説した。また、考え方の基盤となる理論についても概観した。設問の意図を汲み取り理論的考えをもとにした上で、事例の実態に合わせ応用して理解できるように教科書的記述を行った。学生の理解を助けるために、エピソードも書き加え、相談時の様子や健康づくりの企画を行う様子が分かるようにした。解説は項目立てを行い完結にまとめた。</p> <p>共著者名：佐々木美佐子、牛尾裕子、<u>岩佐真也</u>、他22名</p>
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年10月から現在	日本国際保健医療学会 代議員
2. 2000年8月から現在	自分自身の考えを言語化できるような国際理解教育